

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	情報科教育法I		
英文授業科目名	Educational Methods for Information Studies I		
開講年度	2009年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	教職科目-教育課程及び指導法に関する科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	塚原 渉		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
w-tsuka@cc.tuat.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題： この授業では、教科「情報」の教員免許を取得するために必要な知識の伝授と能力の育成を行う。そのため、将来の教員である履修者自身の情報教育リテラシーの育成と、時代に即した内容で教科「情報」を教えるための自己学習力の向上を目指す。</p> <p>(b) 達成目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育リテラシーである、授業の工夫、児童・生徒の観察力、指導力を身に付ける。 ・自己学習する教員に必要な、問題発見、問題認識、解決計画立案、実施方法の整理、実施、分析、改善、評価、報告、議論といった、情動的な問題解決力を身に付ける。

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
情報科に関連する「教科に関する科目」と「教職に関する科目」

【教科書等】
<p><教科書> 文部省 職業教育課・高等学校課編集『高等学校学習指導要領解説 情報編』開隆堂出版</p> <p><参考書> ・岡本・西野・香山編著『情報科教育法』丸善 2002</p>

・岡本・西野編著『情報教育の学習評価』丸善 2004

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：

- (1) 教科「情報」の理念と設立の経緯
- (2) 普通教科「情報」と専門教科「情報」
- (3) 教科「情報」と他教科との連携
- (4) 学習評価
- (5) 生涯学習，初等教育，高等教育との連携
- (6) 情報教育・情報処理教育にかかわる研究や先進的実践の紹介
- (7) 問題解決のためのグループワーク

(b) 授業の進め方：

3日間の集中講義形式で行う．

【1日目】

- [1] 受講者の情報リテラシーおよび情報教育リテラシーのチェックと講評【出席あり】
- [2] 教科「情報」の理念と設立の経緯，諸外国の情報教育
- [3] 普通教科「情報」と専門教科「情報」の比較，情報A,B,Cの概要
- [4] グループワーク：教科「情報」を体系的に教えるための工夫
- [5] グループワーク発表

【2日目】

- [6] 普通教科「情報」A，B，Cの解説【出席あり】
- [7] 普通教科「情報」A，B，Cの解説
- [8] 学習評価，情報教育・情報処理教育にかかわる研究や先進的実践の紹介
- [9] グループワーク：情報A,B,Cに対応した授業の工夫
- [10] グループワーク発表

【3日目】

- [11] 専門教育「情報」のハードウェアに関する教育法【出席あり】
- [12] 専門教育「情報」のソフトウェア，データ通信に関する教育法
- [13] 教科「情報」と他教科との連携，生涯学習，初等教育，高等教育との連携
- [14] グループワーク：「色あせない」授業テーマの工夫
- [15] グループワーク発表，レポート課題発表

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

授業をする際の工夫に関するグループワークを行うので，当日までにどのようなテーマでどのような工夫をするかについて，いくつかの素案を考えてくること．

電気通信大学 平成21年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 成績評価方法： 3回の出席点が20%，授業中のグループワーク発表が40%，最終提出レポートが40%の配点とする

(b) 評価基準：レポートおよび演習結果発表において，論理的な記述や生徒に伝わりやすくするための工夫を重視する． 加えて，考案した授業方法などのアイデアも高く評価する．
また，グループワークでは，グループ内外の自己評価と相互評価を参考にする．

【オフィスアワー：授業相談】

授業の前後，およびメールで相談を受け付ける．

【学生へのメッセージ】

講義内に行う演習で最大限の効果を挙げられるように，積極的な参加態度を持って授業に臨んで欲しい．

【その他】

なし